



## 2017年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2016年11月9日  
東

上場会社名 株式会社 アテクト 上場取引所  
 コード番号 4241 URL <http://www.atect.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)小高 得央  
 問合せ先責任者 (役職名)管理統括部部长 (氏名)福富 宏之 (TEL) 072-967-7000  
 四半期報告書提出予定日 2016年11月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2017年3月期第2四半期の連結業績 (2016年4月1日～2016年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2017年3月期第2四半期	1,222	△2.2	95	△37.8	55	△32.5	34	△45.1
2016年3月期第2四半期	1,250	7.0	152	24.8	82	△39.4	62	△12.2

(注) 包括利益 2017年3月期第2四半期 3百万円 (△86.4%) 2016年3月期第2四半期 26百万円 (△73.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2017年3月期第2四半期	8.04	7.90
2016年3月期第2四半期	15.08	14.46

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2017年3月期第2四半期	5,577	1,425	24.5
2016年3月期	3,780	1,448	36.9

(参考) 自己資本 2017年3月期第2四半期 1,367百万円 2016年3月期 1,394百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2016年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2017年3月期	—	0.00	—	—	—
2017年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2017年3月期の連結業績予想 (2016年4月1日～2017年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	2,545	2.9	204	△13.2	124	△11.4	40	△46.7	9.45	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2017年3月期2Q	4,264,600株	2016年3月期	4,241,100株
2017年3月期2Q	15,347株	2016年3月期	15,347株
2017年3月期2Q	4,239,182株	2016年3月期2Q	4,113,535株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2016年11月16日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは拡大・成長戦略推進のため「ヒト・モノ・カネ」の経営資源をP I M（パウダー・インジェクション・モールディング）事業を中心に集中させると共に、滋賀県東近江市に取得した新工場の早期立ち上げに全力で取り組んでおります。新工場においては事務所エリアの改装、改築は全て完了し、衛生検査器材営業のテレマーケティングがスタート致しました。また、工場エリアの改築も年内完成に向け、予定通り進捗しております。

このような中、低迷していた半導体資材事業においては受注回復の兆しが見えて参りました。依然続く円高傾向を吸収するため、韓国および台湾顧客との間で為替相場に連動した売価を設定することで合意したことに加え、韓国生産比率を拡大したことで第3四半期連結会計期間以降の半導体資材事業については売上拡大、収益率の大幅な改善が見込まれております。

P I M事業においては、将来の製品市場での競争を避けるため同業他社に対して好調であった当社製高性能バインダーの販売を敢えて抑制する策をとって参りましたが、特に自動車用ターボチャージャー関連部品・自動車用パワーデバイス部品・セラミックスボールベアリングなど、先々中核となるであろう事業の安定基盤構築のための重要な事業戦略として継続しております。

衛生検査器材事業においては、当第2四半期連結累計期間の売上高、売上総利益額共に過去最高を更新しました。

新工場の迅速な立ち上げ、P I M事業を中心とした商品開発を加速するための販売管理費の増加は計画通り進捗する中で、当第2四半期連結累計期間において為替差損を46百万円まで圧縮でき、経常利益ならびに親会社株主に帰属する四半期純利益が黒字に転換しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,222百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益95百万円（前年同期比37.8%減）、経常利益55百万円（前年同期比32.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、34百万円（前年同期比45.1%減）となりました。

セグメントの概況は次の通りであります。

なお、セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

#### ① P I M（パウダー・インジェクション・モールディング）事業

##### （ターボチャージャー関連部品の進捗）

国内自動車メーカー1社、国内外の大手ターボチャージャーメーカー3社より、ガソリン車ターボチャージャー用の3部品、ディーゼル車ターボチャージャー用の2部品の試作を受注いたしました。中でもガソリン車ターボチャージャー用の排気系部品の耐熱性を向上させることで、更なる低燃費とドライバビリティの改善が見込まれるため、部品の材質を従来の耐熱ステンレス合金（HK30）からニッケル基超合金（インコネル713C）に変更するための試作依頼が急増しております。

こうした流れを受け、従来工法では加工の難しいニッケル基超合金をP I M工法によりノズルペーン、ウェイストゲートバルブなどに加工し、寸法精度・コストの両立を目指して技術開発を加速させて参ります。

また、現行材料である耐熱ステンレス合金においても精密鑄造に切削加工を組み合わせた従来工法から当社P I M工法に置き換えるための試作が始まるなど、ニッケル基超合金、耐熱ステンレス合金双方の素材で具体的な検討に入りました。

##### （セラミックス製ベアリングボールの進捗）

プレス加工されている他社工法ではセラミックスボールの赤道部に大きなバリが発生し、バリを除去するための粗研磨加工だけで約500時間という非常に長い時間を要しております。

当社ではP I M工法において製作するセラミックス製ボール赤道部のバリがほとんど発生せず、さらにわずかなバリを脱脂焼結工程前に完全に除去する技術を確立し、セラミックス製ベアリングボールの研磨加工時間を他社工法品に比べ4分の1に短縮することが可能となりました。

滋賀の新工場での量産本格稼働を目指し、成形・バリ除去・脱脂・焼結の全自動生産ラインの構築に着手致しました。

また、他社工法ではボール内部に空泡が残存するため熱間等方圧加工(HIP処理)と呼ばれる二次焼成で空泡を除去する必要があり、HIP処理に要する大きなコストが工程上のもう一つのデメリットと考えられてきました。このボール内部の空泡欠陥についても当社P I M工法の一次焼結工程での発生を抑制し、大きなコストのかかるHIP処理を排除するための空泡に関する取り決めを国内大手ベアリングメーカー3社、海外大手メーカー1社とベアリングの用途ごとに完了いたしました。

しかし、堅調であった材料販売を将来の製品市場での競争を避ける目的で抑制している結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は40百万円(前年同期比40.5%減)、営業利益13百万円(前年同期比39.7%減)となりました。

## ② 半導体資材事業

円高の進行、中国経済の失速による受注数量低迷の中、計画の修正(2016年8月9日発表)を行いました。4Kテレビの普及率拡大、携帯電話への当社スペーサーテープの採用など、徐々にではありますが受注数量には、明るい兆しが見えてきました。(出荷数量:当第2四半期連結会計期間単独での前年同期比21.8%増、今期最終着地予測は15.9%増の見込み)

第3四半期連結会計期間から適用の販売価格改定(実質値上げ)、韓国生産の比率拡大により、売上高、売上総利益率共に大幅に改善する見込みです。売上総利益率は第1四半期連結会計期間平均42.9%から9月単独で47.6%に改善しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は401百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益17百万円(前年同期比64.6%減)となりました。

## ③ 衛生検査器材事業

販売面においては、社内データベースを再構築し、13,000社にのぼる顧客からの発注、数量、頻度、地域などのセグメンテーションをより細分化する活動をこれまで以上に高度化し、社内ITシステム部門の開発したコンピューターシステムを従来のテレマーケティングのアウトソーシング先にも導入し、架電件数を大幅に引き上げることに成功しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は微増ではありますが過去最高を更新しました。

原価面においては、今期計画の原価低減計画(生産変革プロジェクト)が予定通り進捗し、シャーレ売上総利益率:47.0%、培地売上総利益率:58.5%といずれも過去最高の売上総利益額、売上総利益率を達成しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は797百万円(前年同期比0.0%増)、営業利益63百万円(前年同期比20.1%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ47.5%増の5,577百万円となりました。

これは、「土地」が1,468百万円、「建設仮勘定(有形)」が177百万円増加したこと等によるものであります。

### (負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ78.1%増の4,151百万円となりました。

これは、「短期借入金」が1,850百万円、「未払金」が38百万円増加する一方、「長期借入金」が85百万円減少したこと等によるものであります。

### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ1.6%減の1,425百万円となりました。

これは、「資本金」が5百万円、「資本剰余金」が5百万円増加する一方、「為替換算調整勘定」が30百万円減少したこと等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2016年8月9日発表の通期の業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 2016年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、2016年4月1日以降に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

#### (会計上の見積りの変更)

##### (耐用年数の変更)

当社の有形固定資産の工具、器具及び備品のうち一部の金型について、第1四半期連結会計期間より耐用年数を変更しております。この変更は、当該資産の物理的寿命、製品ライフサイクルを総合的に勘案し、より実態に即した経済的使用可能予測期間に基づく耐用年数に変更するものです。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ4百万円増加しております。

### (4) 追加情報

#### (繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準委員会 2016年3月28日 企業会計基準適用指針第26号)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,010,620	1,062,234
受取手形及び売掛金	349,413	375,110
商品及び製品	147,881	155,566
仕掛品	18,985	18,860
原材料及び貯蔵品	114,846	142,867
繰延税金資産	60,517	55,557
未収還付法人税等	1,897	65
その他	27,175	41,705
貸倒引当金	△433	△393
流動資産合計	1,730,904	1,851,574
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	572,445	544,892
機械装置及び運搬具(純額)	519,557	554,401
土地	509,974	1,978,619
建設仮勘定	201,192	378,538
その他	23,496	60,805
有形固定資産合計	1,826,666	3,517,257
無形固定資産		
その他	128,335	112,938
無形固定資産合計	128,335	112,938
投資その他の資産		
投資有価証券	2,726	2,594
繰延税金資産	72,486	73,991
その他	19,810	19,686
貸倒引当金	△765	△689
投資その他の資産合計	94,257	95,582
固定資産合計	2,049,259	3,725,778
資産合計	3,780,164	5,577,352

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	297,231	321,670
短期借入金	100,000	1,950,000
1年内返済予定の長期借入金	560,805	552,468
リース債務	41,420	29,366
未払金	99,235	137,848
未払法人税等	24,034	25,445
賞与引当金	32,243	31,802
設備関係支払手形	14,646	25,191
その他	35,728	37,356
流動負債合計	1,205,345	3,111,149
固定負債		
長期借入金	1,122,006	1,036,550
繰延税金負債	186	170
その他	3,853	3,779
固定負債合計	1,126,045	1,040,499
負債合計	2,331,390	4,151,649
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	737,645	743,191
資本剰余金	657,645	663,191
利益剰余金	30,045	21,857
自己株式	△7,425	△7,425
株主資本合計	1,417,910	1,420,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	971	879
為替換算調整勘定	△24,009	△54,361
その他の包括利益累計額合計	△23,038	△53,482
新株予約権	53,901	58,370
純資産合計	1,448,773	1,425,703
負債純資産合計	3,780,164	5,577,352



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
売上高	1,250,020	1,222,029
売上原価	620,586	630,679
売上総利益	629,434	591,350
販売費及び一般管理費	476,602	496,304
営業利益	152,831	95,046
営業外収益		
受取利息	1,083	557
受取賃貸料	1,000	1,000
補助金収入	-	10,000
その他	2,711	8,722
営業外収益合計	4,795	20,279
営業外費用		
支払利息	8,941	9,009
社債利息	315	-
減価償却費	2,131	4,014
為替差損	59,711	46,041
支払補償費	3,563	-
その他	911	848
営業外費用合計	75,575	59,913
経常利益	82,051	55,412
特別利益		
新株予約権戻入益	1,467	3,289
特別利益合計	1,467	3,289
特別損失		
製品補償損失	6,365	-
その他	150	-
特別損失合計	6,516	-
税金等調整前四半期純利益	77,001	58,702
法人税等	14,986	24,632
四半期純利益	62,015	34,070
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	62,015	34,070

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
四半期純利益	62,015	34,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	144	△91
為替換算調整勘定	△35,430	△30,351
その他の包括利益合計	△35,285	△30,443
四半期包括利益	26,730	3,626
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,730	3,626
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。